

広報田村

令和6年度 第1号
 発行日 令和6年9月9日
 発行人 会長 佐久間敏晴
 編集担当 広報部長 鹿俣 晶子

巻頭言

各学年における総授業時数からの考察

田村地区小学校長会長 佐久間 敏晴

私が教員になった頃からの学習指導要領に示された各学年における総授業時数を掲載してみる。

<昭和52年7月告示>

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	特活	総時数	※特別活動の授業時数は小学校学習指導要領で定める学級活動及びクラブ活動に充てることとなっている。
1年	272	68	136	68	68	68	102	34	34	850		
2年	280	70	175	70	70	70	105	35	35	910		
3年	280	105	175	105	70	70	105	35	35	980		
4年	280	105	175	105	70	70	105	35	70	1015		
5年	210	105	175	105	70	70	105	35	70	1015		
6年	210	105	175	105	70	70	105	35	70	1015		

※年間35週(1年は34週)計算で各教科の週時数が決まっていた。
 ※土曜日に授業(半日)あり、クラブ活動の日以外は5校時だった。

<平成元年3月告示>

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	特活	総時数
1年	306	136	102	68	68	102	34	34	850			
2年	315	175	105	70	70	105	35	35	910			
3年	280	105	175	105	70	70	105	35	35	980		
4年	280	105	175	105	70	70	105	35	70	1015		
5年	210	105	175	105	70	70	105	35	70	1015		
6年	210	105	175	105	70	70	105	35	70	1015		

※低学年の社会科・理科がなくなり、生活科が導入された。

<平成10年12月告示> ※表作成の都合上、生活・総合を同じ表列に表した。

	国語	社会	算数	理科	生総	音楽	図工	家庭	体育	道徳	特活	総時数
1年	272	114	102	68	68	102	34	34	782			
2年	280	155	105	70	70	105	35	35	840			
3年	235	70	150	70	60	60	105	35	35	910		
4年	235	85	150	90	105	60	60	90	35	35	945	
5年	180	90	150	95	110	50	50	60	90	35	35	945
6年	175	100	150	95	110	50	50	55	90	35	35	945

※週5日制が実施されるとともに、標準時数の見直しが行われ、時数が減るとともに、総合的な学習の時間が導入された。

<平成20年3月告示> ※表作成の都合上、外国語活動を英語と表した。

	国語	社会	算数	理科	生総	音楽	図工	家庭	体育	英語	道徳	特活	総時数
1年	306	136	102	68	68	102	34	34	850				
2年	315	175	105	70	70	105	35	35	910				
3年	245	70	175	90	70	60	60	105	35	35	945		
4年	245	90	175	105	70	60	60	105	35	35	980		
5年	175	100	175	105	70	50	50	60	90	35	35	980	
6年	175	105	175	105	70	50	50	55	90	35	35	980	

※標準時数が増えるとともに、5・6年生に外国語活動が導入された。

<平成29年3月告示> ※外国語活動(3・4年)と外国語科(5・6年)を同じ表列に英語と表した。

	国語	社会	算数	理科	生総	音楽	図工	家庭	体育	英語	道徳	特活	総時数
1年	306	136	102	68	68	102	34	34	850				
2年	315	175	105	70	70	105	35	35	910				
3年	245	70	175	90	70	60	60	105	35	35	980		
4年	245	90	175	105	70	60	60	105	35	35	35	1015	
5年	175	100	175	105	70	50	50	60	90	70	35	35	1015
6年	175	105	175	105	70	50	50	55	90	70	35	35	1015

※3・4年生に外国語活動、5・6年生に外国語科が新規に導入され、授業時数がそれぞれ35時間ずつ追加された。それに伴い、6校時授業が増えた。

こうして並べてみると、「ゆとり教育」と言われた平成10年告示の学習指導要領において一度総授業時数が減少したものの、次第に見直され、現行学習指導要領における総授業時数は、平成元年告示学習指導要領における総授業時数と全く同じ

総授業時数になったことが分かる。

しかし、当時と教育環境や時代背景は大きく変わっている。まず何と言っても、当時は土曜日が半日勤務で、多くの学校で3単位時間程度の授業が行われていたことがある。また、注釈のように上学年の授業時数には週1回のクラブ活動が計上されていることも違う。現行学習指導要領では「イ

特別活動の授業のうち、児童会活動、クラブ活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。」と示されており、クラブ活動は総時数には計上されていない。つまり、現行の上学年の総授業時数は、当時より35単位時間多いのである。さらには、生活科、外国語科、総合的な学習の時間、外国語活動が新設されるとともに、時数計上はないが、各種教育活動が取り入れられ、指導内容の範囲は広がっている。

このような状況において、これまで授業のモジュール化を導入したり、午前5校時授業など日課表の工夫を試みたり、土曜授業を行ったりするなど、各学校や自治体において創意工夫を凝らしてきたが、定着化が図られたとはあまり言えない状況であった。そこで、現行学習指導要領が全面実施されるにあたり、長期休業期間を見直し、授業日を増やす施策を取り入れる自治体も出てきた。田村市も田村市小・中学校校長会からの要請を受け、その施策を実施したと聞いている。本校の例ではあるが、授業日が5日(週休日の関係で3日や4日の場合もある。)増え、6校時授業を極力減らし、教材研究や会議・打合せ等の時間、児童と向き合う時間等を確保したり、校外で全教員が参加する授業研修日や家庭訪問期間、期末事務整理期間等は4校時で児童を下校させたりすることができている。このように各学校や自治体において、「働き方改革」を推進しながら様々な工夫がなされてきているのである。

今後も「Well-being」の実現を目指し、不易と流行や気候変動による熱中症対策等、多角的・多面的な視点からスクラップ&ビルドを重ね、不断に改善を図っていくことが大切であると思う。

大越小学校に着任して

田村市立大越小学校長 坂内 清昭

1 読み声 歌声 歓声が響く学校

4月に大越小学校に着任した際に、まず目にとまったものは、正面玄関に貼り出されている「読み声 歌声 歓声が響く学校」という毛筆で書かれた学校の紹介とも言える掲示でした。

その意味をほどなく実感したのですが、始業式・入学式の際に、体育館に響き渡った子どもたちの元気な校歌の歌声に感動いたしました。

本校の教育目標は、「心豊かで 輝く瞳とはじける笑顔のたくましい子どもの育成」です。この教育目標もまた、めざす児童像がとてもよく表現されたすばらしい目標であると考えています。

子どもたちのよさを生かしながら、充実した教育活動を推進していかなければならないという思いを新たにいたしました。

2 幼小連携・小中一貫教育の推進

本校では、大越こども園、大越中学校と連携しながら、幼小連携・小中一貫教育の推進と充実に努めています。

大越こども園との連携においては、今年度6月と7月に計3回、園児と児童が互いに園と学校を行き来しながら、遊びを介して関わったり活動を工夫したりすることを通して交流を深めました。秋にも、交流会を行う予定です。このような経験は、園児の本校へのスムーズな入学や教育活動の接続につながると考えています。



【1年生と幼稚園児との交流】

また、大越中学校との小中一貫教育の推進においては、5月に6年生がさっそく中学校の授業を参観したり、部活動を見学・体験したりさせていただきました。

私がこれまでに勤めてきた小学校においては、このような見学・体験は、中学校進学を前にした12月以降に行ってきたのですが、早くからこのような体験をすることにより、1年間をかけて中

学校進学に向けた心構えや準備を整えていけるのだと目からうろこでした。

さらに、社会科や外国語科においては、各教科の指導を専門とする中学校の先生に授業をしていただいたことにより、6年生がその後に取り組む歴史の学習に対する関心を高めたり、中学校での英語の学習に対する期待を高めたりすることができました。

今後、小学校としては、バレーボールの指導を得意とする教員が中学校に出向いて指導を行い、中学校体育の授業に貢献できればと考えています。



【中学校理科の授業の見学】

【中学校教員による外国語の授業】

3 地域に支えられ、地域と共にある学校

本校では、地域コーディネーターを中心とした地域学校協働ボランティアの方々や地域の方々のお力添えをいただき、充実した体験活動等を行うことができます。

例えば、今年度は5、6年生が、地域に伝わる祭り太鼓や唄を学んで運動会で披露し、その演奏に合わせて、児童、教員、保護者、地域の方が、さながらお祭りのように盆踊りを踊りました。5、6年生は、いつでも地域の祭りを引き継ぐ後継者となることができそうです。



【運動会での祭り太鼓の演奏と盆踊り】

◇おわりに

日頃より、本校教育活動の充実にご理解とご協力をいただいている保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様に感謝申し上げます。子どもたちの輝く瞳とはじける笑顔の実現のために、職員が一丸となって教育活動に取り組んで参ります。

地域で子どもたちを育む

田村市立都路小学校 鹿俣 晶子



1 地域に大切にされる子どもたち

令和6年5月18日、青空の下で「都路小学校・こども園合同大運動会」を開催できた。全校生30名、その子どもたちを地域や保護者の方々が取り囲み、笑顔で見守っている。

同じような光景を、今から10年近く前に保護者の立場から見ていた。瀬川小学校の我が子の運動会。瀬川地区もここ都路と同じように、地域と保護者が子どもたちをあたたく育んでいた。



【令和6年度都路小学校・こども園大運動会】

2 地域の中で育つ良さ

「自分は大切にされている」・・・家族から、こう感じる事ができれば、子どもは健やかに育つと考えている。それが、となりに住むおばあちゃん、いつも声をかけてくれる近所のおじさん、多くの大人から大切にされている、ということを実感できることが、子どもたちにとって大きくプラスに働くと考える。「安心感」や「情緒の安定」をもたらし、さまざまなものへの関心や意欲、好奇心やチャレンジ精神につながっていくもの、と子育て中に読んだ書籍にも書いてあった。



【地域の方とのさつまいもの苗植え】

3 田村地区の良さ

今思えば、私の子育てにおいても、この田村の地域の力をどれだけ借りただろう。私は、我が子の子育てを、瀬川に住む義父母に大変助けていただいた。田村地区は自然豊かで、義父母はいつも我が子を自然の中で育ててくれた。一緒に畑仕事をしたり、野菜を収穫したり、米の収穫期には稲架にブランコを作って幼い娘を乗せてくれたりした。近くに住む親戚や、隣組の家々に用事があれば一緒に連れて行き、あたたくい言葉をかけてもらったり、楽しく話をしたりして、人と関わる機会もたくさん与えてくれた。

自然と共に生きる心豊かな人たちと、緑いっぱいの自然が、田村地区の良さであり、その中で我が子は健やかに育まれた。この自然と人がいなかったら、私の子育てはどうなっていただろう、と思う。どこで暮らすことになっていたかは分からないが、「人」と「自然」、この二つの環境に勝るものを与えることは容易ではなかったと思う。私は、子育てを支援してくれた義父母を含め、この田村の地域に深く感謝している。

4 地域の中の学校であること

都路小学校の子どもたちは、純朴で素直であり、何事にも一生懸命に取り組む。都路の豊かな自然と人の中で、大切にされている子どもたちである。地域に生まれ、すでに伸びる力を与えられている子どもたちに、これからどのような力をつけられるか、教職員とともに考え、日々の教育活動を充実させていきたい。

都路小の校庭には樹齢250年といわれる大きな「笠松」がある。この笠松に見守られ、私も学校経営に力を尽くし、都路の子どもたちをよりよく成長させていきたいと思う。



【都路小校庭にある市指定天然記念物の笠松】

一期一会

田村市立美山小学校長 遠藤 謙一

1 はじめに

美山小学校は、新うつくしま百名山の一つ、また、ふねひき五山（片曾根山・移ヶ岳・高柴山・鎌倉岳・日山）の一つにも数えられる移ヶ岳の麓、緑に囲まれた大自然の中に立地しています。令和5年4月1日に、美山小学校、緑小学校、瀬川小学校の3校が統合し、新生美山小学校が誕生しました。児童数は128名（令和6年8月26日現在）であり、みんな毎日元気に、たくましく、充実した学校生活を送っています。



2 教育目標

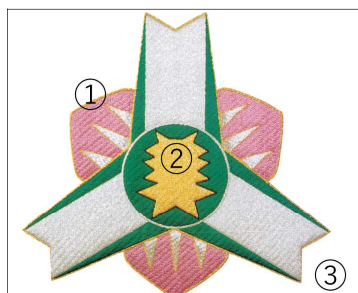
ともに たくましく 学び続ける 子どもの育成

本校の教育目標の「ともに」には、「3つの地域から集まった子どもたちが、力を合わせて」という願いが、「たくましく」には、「違いや困難を乗り越えて、粘り強く」という思いが、「**学び続ける**」には、「将来に渡って学び続けていくための基礎的な力をもった子どもに」という未来像が込められています。この教育目標を具現化するために、3つの具体目標を設定し、私たち教職員は教育活動に取り組んでいます。

3 校章

子どもたちが健やかに育って欲しいという思いは本校の校章にも込められています。

① 校章の土台は梅の花弁を表しています。本校校庭にある梅は本校のシンボルであり、菅原道



真による学問愛好の精神にあやかるものでもあります。おしべは小学校の「小」を表しています。また、統一ある人物の統治を環として表しています。

② 中央の「美」は、美山の紅葉の秋を表すとともに、情熱を表現しています。

③ 三つの方向に伸びているものは、移ヶ岳の山容を表し、三方に広がり希望と校運の発展を表しています。また、知力、心力、体力として、教育の三本柱を表し、前述した教育目標を具現化するための「3つの具体目標」の根源にもなっています。

それぞれ中央は銀色になっており、樹氷に輝く冬山を表すとともに、冷静さ、厳格さを象徴しています。本校の校歌冒頭にも、その思いが込められています。

美山小学校校歌

作詞 天野 多津雄

作曲 村谷 達也

- 1 つつじ樹氷の 移ヶ岳を
父としたしみ 朝夕仰ぎ
からだを鍛え 心を磨く
かおる白梅 かざして学ぶ
我等は 美山小学生
- 2 若葉もみじの 片曾根山を
母としたいて 朝夕ながめ
よい子強い子 すくすくのびる
かおる白梅 かざして学ぶ
我等は 美山小学生

4 保護者、地域と共に

学校は保護者、地域の皆様と共に子どもたちを育むことが求められていますが、特に本校は学校と保護者、地域が強く結ばれていると感じます。昨年度の学校統合により、学区、地域が広がったことありますが、保護者、地域の皆様からの温かいご声援を強く感じます。またそれは、本校への大きな期待であるとも言えると感じています。

5 おわりに

教員人生30年を終えた本年度、本校に着任しました。ふり返ると、教員人生の半分以上が本地区にてお世話になりましたので、私にとって田村は、馴染み深い故郷でもあります。教員初任を船引中学校でお世話になりました。その当時の生徒が立派な親となり、本校の保護者として再会できたことも、大きな縁を感じます。いただいた機会を大いに活かし、学校経営に反映することが、保護者や地域の皆様への恩返しだと感じています。

地域とともにある岩江小学校

三春町立岩江小学校長 阿部 弘行

1 はじめに

本校は、昭和38年に開校し、今年で創立61年になります。昭和60年の改築の際、三春町で初めてオープンスペースを持った学校として整備されました。このゆとりのある空間を活用しながら創意工夫をして、日々教育活動を進めております。

2 地域人材を活用した授業・教育活動

本校は、学校運営協議会をはじめ、たくさんの地域のみなさまに支えていただきながら、日々の教育活動を展開しております。

4月当初に一番感動したのは、どの学校でもいろいろと工夫し苦労している1学年の給食指導において、ボランティアサークル「元気か〜い」のみなさまに、ご支援いただいていることです。



【「元気か〜い」による給食ボランティア】

1学年の全ての児童の給食当番体験が終わるまでの1ヶ月間、配膳指導の補助をしていただいております。今では、どの子も給食当番が上手にできるようになり、自分たちで安全に給食の準備を行うことができるようになりました。丁寧に指導ができていることに、とても感謝しています。

毎日の登校においては、地域の「岩江っこ見守り隊」のみなさまにお世話になりながら、安全に登校することができています。見守り隊のみなさまは、児童の各地域の集合場所から学校までの道のりを一緒に歩き、安全に登校するとともに、その登校時の児童の様子から、たくさんの情報を学校へ共有してくださります。悩みを抱えている児童に寄り添い、いつもやさしく声かけをしてくださっていることに、とても感謝しています。



【総合的な学習の時間：われら岩江たんけん隊】

学習面では、3年生の総合的な学習の時間において、地域ボランティアのゲストティーチャーにお世話になりながら、三春町岩江地区の名所旧跡等を実際に訪れ、解説を頂きながら、学びを深めることができました。

5年生の社会科の米作りの学習では、地域の「ファームパークいわえ」さんの全面バックアップにより、田んぼアートでの田植え体験をしたり、稲の成長を定期的に観察したりしながら、収穫体験までお世話になっております。



【ファームパークいわえでの米作り体験】

また、6年生の社会科の学習でも、町内の行政相談委員のみなさまにお世話になりながら、身近な行政と町づくりへの参画について、実例を交えながら詳しく学ぶことができました。

3 おわりに

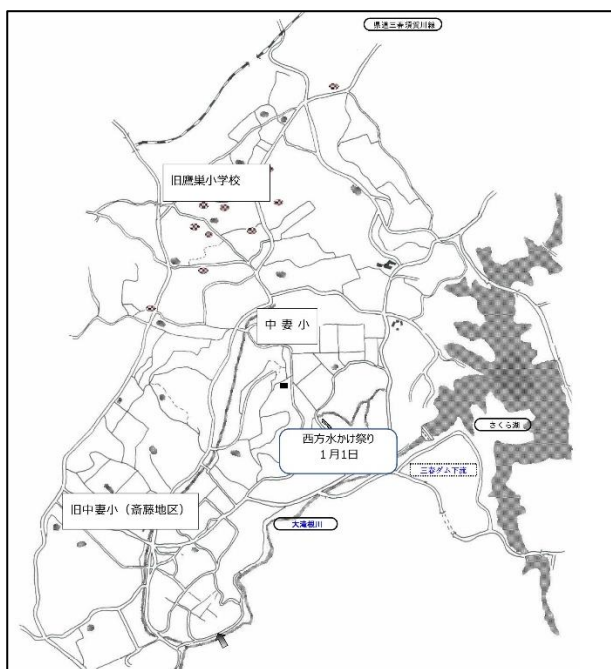
たくさんの地域のみなさまとのつながりは、本校にとっての強みであり、財産でもあります。これまで同様、充実した学習活動が進められるよう、校長として、人と人とのつながりを大切にしながら地域に開かれた学校経営を進めていきたいと思っております。

中妻小学校ならではの教育を

三春町立中妻小学校 白岩 新一

1 中妻小学校って？

中妻小学校は、児童数48名の極小規模の小学校です。三春町の南西部に位置し郡山市に隣接しています。沿革を紐解くと、明治6年創立の達材小学校を前身とする旧中妻小学校と同じく明治6年創立の孝徳小学校を前身とする鷹巣小学校が、昭和52年に統合されて中妻小学校になりました。現在の中妻小学校の場所は、学区の北東部に位置する鷹巣地区と南西部に位置する斎藤地区の間地点にあり学区の中央に位置します。児童の大半は鷹巣地区または斎藤地区に自宅があるため、毎朝約1.5kmを歩いて登校します。体調不良を訴える児童が少ないのは、毎朝のウォーキングが影響しているのではないかと感じています。



2 目指す児童像は「情・知・体・意」

中妻小学校は教頭時代、平成29年度から2年間勤務していた学校です。今年度校長として6年ぶりに勤務することになりました。以前からとてもよいと思っていたことは、教育目標の目指す児童像です。「な・か・つ・ま」を頭文字にして、○なかのよい子(情) ○かながえる子(知) ○つよい子(体) ○まじめな子(意)の4つの目指す児童像があります。多くの学校は「知・徳・体」で構成されていますが、本校は、プラス1で「まじめな子」(意志)があります。

年度始めの始業式で児童に話しましたが、「まじめな子」(意志)が他の3つを支えていると思っています。「まじめな子」(意志)を目指し教育活動を通して非認知能力を育てていきたいと思っています。

3 西方の水かけまつり

話は変わりますが、本校学区の西方地区には、400年以上続く三春町指定無形民俗文化財の奇祭「西方の水かけまつり」があります。元日に西方地区の若連が上半身裸に頬かぶり姿で水田に入り、無病息災、子孫繁栄、五穀豊穰を願い、バケツで豪快に水を掛け合います。新年のローカルニュースで目にした方もいるかと思います。

地域の方から水かけまつりも後継者不足が悩みとの話を聞きました。そして、次世代につないでいくひとつの



取組として、この夏、「子ども水かけまつり」が開催されました。西方地区以外の子どもにも参加を募り、体験を通して地元のまつりに関心をもたせたい、ふるさとの原体験を心に刻ませたい、という地域の方の思いからです。

4 少子化の波の中で

統合時の昭和52年度の全校児童数は110名、ピーク時の昭和61年度には177名でしたが、ここ数年は50名前後で推移しています。今後も減少傾向にあり、今年度6月には小学校統廃合案が三春町教育委員会から示されました。

とは言っても学校現場は、目の前の課題である「授業改善」と「働き方改革」に取り組んでいることもあり、児童一人一人に必要な資質・能力を身に付けさせることに傾注しています。小学校統廃合はまだ現実的な課題とはなっていません。

少子化の波は新たな課題を突きつけてきますが、学校経営の基本理念である「学校が好き、友達や先生が好き、なかつまの地域が好き」な児童の育成を目指して、学校と地域の双方向の関係性を基盤に児童の心を動かす教育活動を教職員とともに展開していきたいと考えています。

あいさつ力を磨く

小野町立小野小学校長 米本 順一



1 小野小学校の改善のテーマ

小野小学校は、コミュニティ・スクールとして3年目になります。昨年度の学校運営協議会の提案により、本年度、小野小・中学校教育課程編成共通スローガンが次のように定められました。

「めざせ！あいさつ日本一の町 小野町」

この共通スローガンを受け、小野小学校では、令和6年度を「学校・地域を元気にする学校経営の1年次」と位置付け、改善のテーマ(重点事項)を「あいさつ力を磨くことで、自己の生き方を前向きに創り上げていく子ども」としました。

あいさつ力を磨くことによって、子どもの前向きさを引き出し、発揮させ、子どもが前向きに生きていこうとする力をつけたいと考えています。そして、前向きさが、進んであいさつしている、あいさつする子どもの態度が気持ちいい、どこでもあいさつしているなどの子どもの姿となって地域の方々に認知していただけるようにしたいと考えています。

あいさつ力を磨くことは、「あいさつは大切」、「あいさつをしまさい」と直接的なあいさつの指導に力を入れるというわけではありません。当然、あいさつの指導も適宜行いますが、子どもたちに「あいさつをしまさい」という言葉をかけずに、諸能力を高めることができるよう、各教科等でどうしたらよいのか考えながら取り組みます。今年度は、特に生活科や総合的な学習の時間での探究的な学びを軸に、取り組んで行こうと考え、現職教育に位置付けています。

2 あいさつに必要な諸能力とは

そもそも、あいさつに必要な諸能力とは何でしょうか。「あいさつをしましよう」と子どもたちに呼びかけますが、言われているからやるのではなく、あいさつを当たり前でできる子どもは、どんな能力を効果的に発揮しているのでしょうか。

安直ですが ChatGPT に「あいさつに必要な諸能力は？」と問うと

- ・ 言語能力
- ・ 非言語コミュニケーション

- ・ 文化的理解
- ・ 社会的スキル
- ・ 感情の読み取り
- ・ 反応力

との回答でした。あいさつに必要な諸能力は、柔軟性や表現力など他にもあると思いますが、概して、相手へ配慮できることやコミュニケーション能力、状況を判断する力、状況の変化に臨機応変に対応する力などにとらえており、VUCA 時代に必要とされる能力であると考えています。「あいさつ」の背後にこれだけの諸能力が関係しているのだと思うと、気持ちのよいあいさつができる、あいさつすると一言二言返答し、応じることができるということは、様々な能力が発揮されていることであり、すごいことなのだと思います。

3 これから

手探りながら、すべての教育活動を通してあいさつに必要な諸能力を高めること、教職員、友達だけでなく、地域の方々とのおふれあいの中で、あいさつ力を磨くことを意識して取組を進め、前向きさ、前向きに生きていこうとする力を追究していきます。軸となる生活・総合的な学習の時間では、各学年が次のようにテーマを設定し活動を始めています。

- 1年生「小野小お花畑プロジェクト」
- 2年生「ベジタブル&トイストーリー」
- 3年生「小野町お仕事探検隊」
- 4年生「やりたいことを極めよう！とことん追究ファクトリー」
- 5年生「小野町産米をおしくいただくためのマイプランを考えよう」
- 6年生「笑顔とがんばりを増やして幸せの町を作ろう！」



子どもたちがわくわくしそうなテーマが並んでいます。これから、どんな活動が展開されるのか、あいさつ力がどのように磨かれていくのか楽しみです。様々な場面で、職員と一緒に、子どもの前向きな姿を見つけていく1年にするつもりです。

滝根地区幼小中連携と地域を生かす教育

田村市立滝根小学校長 小川 久弥

1 はじめに

滝根小学校は、平成28年に旧滝根小、旧広瀬小、旧菅谷小が統合し、「滝根小」として開校しました。同年に新校舎が完成し、新しいスタートが切られました。工事期間は約2年、広い校庭と深さの違う6コースのプール、明るい体育館も完成しました。体育館の壁にはボルダリング設備もあります。令和2年4月には「滝根幼稚園」が校舎1階に開園し、同一施設内での幼小連携が始まりました。

統合9年目を迎えた今年度は1名の転入生があり、児童数153名でスタートしました。82名が3台のスクールバスで、他の児童は徒歩で毎日元気に登校しています。

2 滝根地区幼・中連携の推進

校舎1階の滝根幼稚園とは、「合同運動会」「合同避難訓練」を実施しています。運動会では、園児も紅白に分かれて小学生の応援をしてくれます。



(運動会開会の言葉)

可愛いダンスも好評です。今年度は年長さんの宝拾いが復活しました。

避難訓練では、火災や地震、不審者が侵入した際の避難経路

について一緒に学んでいます。

1学年と年長の交流もさかんに行われています。すっかりお兄さんお姉さんになった1年生が楽しい遊びを提案してくれています。

現在、「架け橋期カリキュラム滝根版」の作成を進めています。キーワードは「みんなで育てよう滝根っ子」です。



(1年生と年長組の交流)

「幼稚園教育において育みたい10の姿」の⑨にある「言葉による伝え合い」を柱に、年長・年中児の目指す姿と小学校低学年の目指す児童像を照らし合わせながら、併設校舎のよさを生かした特色あるカリキュラムを提示することができるよう、園長と話し合いを重ねながら構想を練り始めています。

3 滝根地区小・中連携の推進

徒歩で5分の滝根中学校との小中連携も進めています。小中授業研究会や中学校教員の乗り入れ授業の他に昨年度は「小中連携キャリア教育」の一つとして、天文台長さんの講話や地域おこし協力隊講演会に本校6年生が参加しました。今年度は6年生の体験入学を年2回実施する提案を中学校さんからいただき、6月に1回目を実施し1年生の数学の授業を参観しました。この授業には小学校教員がTTとして授業に参加しました。さら



(中学校授業の見学)

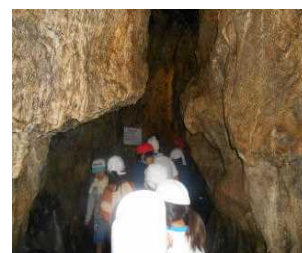
(健太康太コンサート)

に英語の授業体験、中体連直前の熱のこもった部活動の練習見学ができて大変有意義でした。

また今年度はキャリア教育として「健太康太コンサート」に5・6年生を招待していただきました。心温まる時間を中学生と共有することができました。

4 滝根地区のよさを生かす

滝根地区には、あぶくま洞や入水鍾乳洞、浄水場やクリーンセンター、大雷神社のしだれ桜や粉化工場等々たくさんの史跡や施設、工場があり、各学年の年間計画に見学が組み込まれています。自分たちの住んでいる地域を調べ、見学し、素直な感想をま



(入水鍾乳洞Aコース)

とめることで滝根がますます好きになり、「将来戻ってきたい」「今後出会う人達に伝えたい」という気持ちになってくれることを望んでいます。

5 おわりに

幼小中と一貫して恵まれた環境で学ぶことができている園児、児童、生徒のために、私たち教職員ができることは何か模索中です。幼稚園、中学校との連携はもちろんのこと、地域や保護者の協力も得ながら滝根っ子の明るい未来を見据えた学習指導、地域学習を今後も展開していきたいと考えています。